

ひょうご

職親会だより

2011.11 第27号

※ 職親会（兵庫県精神保健職親会）は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】

《巻頭言》

「笑顔」 兵庫県精神保健職親会 会長 森本 稔 P1

《報告 ①》

平成 23 年度 兵庫県精神保健職親会総会 P2

○平成 22 年度 事業報告

○平成 23 年度 事業計画

○兵庫県精神保健職親会役員（平成 23 年度）

《報告 ②》

講演「働く喜びを伝えよう・働く気持ちを支えよう」 P4

《職場探訪》

西宮市 西宮すなご医療福祉センター P6

《報告 ③》

平成 23 年度働く精神障害者からのメッセージ発信事業

精神障害者中央就業セミナー（in 埼玉） P8

巻頭言

「笑顔」

兵庫県精神保健職親会 会長 森本 稔

本職親会も結成14年になりました。

ふり返る余裕もなく、脇目もふらずにただ働くことへの意義を一途に、また、地道に訴えてきた14年とも言えます。

まず社会に、職場に当事者のスペースを少しずつ少しずつ広げてくださいと、機会あるごとに訴えてきました。総数的には景気に左右されることもありますが、当事者は一生懸命頑張ってきました。

就労即ち働くということは、私はまず「字の如く、人が動くことが出発点で、大勢の関係者が動き、その場所や方法、成果を考えてください」と事業所をお願いをしてきました。

国の方針は遅々として進みませんが、日頃私たちは働きの中にみる当事者の笑顔に「あーよかったなあ」と感じる一刻が得られ、地道な活動であります。就労支援の輪を底辺から広げていこうという思いを強くすることがあります。

職親会は、進まない法整備に苦言を呈するとともに、職親事業所の共通の成果である「笑顔」をもっともっと広げる運動を、さらに展開しようと思っております。





平成23年度 兵庫県精神保健職親会総会

7月19日、平成23年度の総会を開催し、22年度の事業・決算報告、23年度の事業・予算計画、役員改選が承認されました。

○平成22年度事業報告

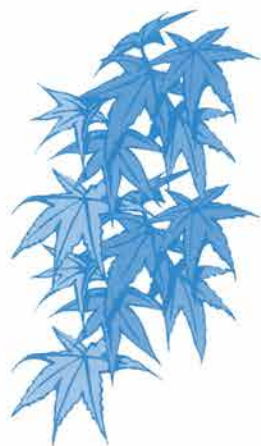
事業名	年月日	場所	内容
(1) 総会	22. 6.30(水)	神戸市勤労会館	事業報告及び事業計画
(2) 職親研修会の開催	22. 6.30(水)	神戸市勤労会館	○兵庫県精神保健職親会講演会 ・講演「我が社の精神障害者雇用」 ・意見交換 参加者：102名
	22. 6. 9(水)	龍野庁舎	○第1回就労支援地域研修会（西播磨） ・「兵庫県における社会適応訓練事業」について ・話題提供 ①西播磨における社会適応訓練事業について ②障害者雇用の事例提供 ③障害者雇用に関する制度 ④就労移行支援制度について ・意見交換 参加者：17名
	22.10. 7(木)	龍野経済交流センター	○第2回就労支援地域研修会（西播磨） ・講演「障害を持ちながら働く!」 ・意見交換 参加者：80名
	23. 2. 2(火)	龍野庁舎本館	○第3回就労支援地域研修会（西播磨） ・「職場におけるうつ病対策」 ・交流会 参加者：23名
	23. 1.27(木)	姫路市市民会館	○中播磨就労支援研修会（交流会） ・職親による体験発表 ・意見交換 参加者：29人
(3) 役員会	21. 5.19(水)	精神保健福祉センター	参加者：16名
	21.11.18(木)	精神保健福祉センター	参加者：14名
(4) 広報普及	22.11	・社会適応訓練事業のリーフレット 5,000部 職親会会員・賛助会員、健康福祉事務所、ハローワーク、社会福祉協議会等約300箇所に配布	
	23. 1	・ひょうご職親会だより 第26号 3,000部 職親会会員・賛助会員、健康福祉事務所、ハローワーク、社会福祉協議会等約300箇所に配布	
(5) 他機関との連携・協力	22. 5. 8(土)	龍野ゴルフ場	○姫路ロータリークラブチャリティーゴルフ （職親会、社会適応訓練事業についての説明） （会長、事務局2名）
	22. 7. 7(水)	加古川総合福祉会館	○加古川地区精神障害者家族会連合会総会 （会長）
	22.10. 5(火)	兵庫県農業共済会館	○第2回障害者雇用・就労支援ネットワーク会議 （会長、事務局2名）
	23. 3. 1(火)	兵庫県農業共済会館	○第3回障害者雇用・就労支援ネットワーク会議 （会長）
	22.10.14(木)	兵庫県庁	○第1回兵庫県障害福祉審議会 （会長）
	23. 3. 9(水)	兵庫県庁	○第2回兵庫県障害福祉審議会 （会長）
	22.11. 3(水)	メリケンパーク	○ハートフェスタ後援・鉢植え提供
	22.12.10(金)	グリーンアリーナ神戸	○第4回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会（後援）

(6) 全国精神障害者就労支援事業所連合会への協力	22.10.18(月)～19(火)	かながわ労働プラザ	○全国精神障害者社会適応訓練事業研修会神奈川大会 (会長、事務局1名)
	22.11.19(金)	南部労政会館	○全国精神保健職親研究会 (理事1名、事務局1名)
	22.5.19(水)	(東京)	○全国精神障害者就労支援事業所連合会理事会 (会長1名)
	22.6.2(水)	(東京)	○全国精神障害者就労支援事業所連合会理事会 (会長1名)
	23.3.10(木)	(東京)	○全国精神障害者就労支援事業所連合会理事会 (会長1名)

職親会の活動費は、会費・賛助会費、県委託費によって賄われています。平成22年度は、収入914,858円に対し、支出は500,922円でした。主な支出は、社会適応訓練事業のリーフレットの作成や職親会だよりの発行、就労支援地域研修会の開催などでした。平成23年度は、22年度の繰越金を加え、1,135,000円の予算です。



平成23年度事業計画



- 1 定期総会及び講演会（平成23年7月19日開催）
- 2 地域研修会の開催
- 3 役員会の開催（年2回）
※第1回役員会は平成23年6月19日に開催
- 4 『ひょうご職親会だより』の発行（年2回）
- 5 会員の拡充
- 6 NPO 法人全国精神障害者就労支援事業所連合会（全国職親会）への参加並びに連携
- 7 各種関係機関との連携・協力

○兵庫県精神保健職親会役員（平成23年度）

お体の不調もあり、後藤悦司さんが副会長を退かれ、監事に就任されました。それに伴い、（有）サポートセンターれいめいの野村浩之理事が副会長に、（福）三翠会の東前弥生監事が理事に就任されました。

役職	氏名	事業所名	役職	氏名	事業所名
顧問	西村稜威雄	西村商店	理事	宮崎 宏興	NPO法人いねいぶる
会長	森本 稔	(株)森本鐵工	理事	岡寄 國男	(有)岡寄精機
副会長	石井 建三	イシイメディカルサービス株式会社	理事	東前 弥生	(福)三翠会
副会長	野村 浩之	(有)サポートセンターれいめい	監事	後藤 悦司	(株)S.G.U
理事	細見 勝	(株)仲和青果食品	監事	上川 雄吾	(株)金森商店
理事	高嶋 秀忠	高嶋園芸			



講演「働く喜びを伝えよう・働く気持ちを支えよう」

講演会では、兵庫県障害者職業センターの主任障害者職業カウンセラー、山口久尚氏より日頃、精神障害者の就労支援に携わられている中で培われたノウハウや、当事者の「働きたい」という気持ちをいかに支援していくかといったポイントを、就労支援制度面の話を交えてお話いただきました。



かつては精神障害者が働くことの理解が広がっておらず、支援制度も不十分だった。

しかし

多くの精神障害者が「働きたい」という気持ちを持ち、就労を希望している人の半数以上が一般雇用を希望されている。

就労支援の重要性

- 多くの精神障害を持つ人たちが「働きたい」と希望
- 「働くこと」が社会人としてのアイデンティティ
- 就労はトリートメント（＝治療）である
- 就労支援は生活支援の一部分

近年、精神障害者の雇用率は増加傾向にあり、障害者職業センターに来る方の3割が精神障害者という状況である。

就労にむけて利用できる制度の主なものをいくつか紹介すると…

- ・ 精神障害者社会適応訓練事業
- ・ ジョブコーチ支援
- ・ 職場適応訓練事業
- ・ ステップアップ雇用（職親会だより24号参照） など



今回は、その中で『ジョブコーチ支援』についてピックアップしたいと思います。

☆ジョブコーチ支援☆

こんなことってあるよね

当事者

- 障害特性として、新しい環境に入っていくことの不安や緊張が大変高い。
- 本人にあったペースや、配慮が必要。
- しんどさが事業主に伝わらない。

事業主

- 精神障害者に対するノウハウが完璧にあるわけではないし、常にマンツーマンで手取り足取りで仕事を教える訳にもいかない。
- 意図が本人にうまく伝わらない。

こういったことが就労の継続の妨げになっていませんか？

そこで

障害者に対して

- ・ 基本的なコミュニケーション（挨拶・返事・報告・質問）
- ・ 職務の遂行（手順の理解、生産性向上）
- ・ 通勤指導（交通機関の利用、緊急時の連絡）
- ・ 支援ツールの作成（作業指示書、マニュアル、作業チェック表）等

ジョブコーチが『支援計画の策定（支援のコーディネート）』を行い、仕事と一緒にについて入り、フォローアップを行う。

事業主に対して

- ・ 障害特性と対応についての助言
- ・ 職務内容の設定（職務分析、課題分析）
- ・ 指導方法（効果的な指導方法、指示の提示方法に関する助言）
- ・ 従業員と障害者の関わり方
- ・ 企業と家族との関係調整のしかた

家族に対して

- ・ 安定出勤のサポート
- ・ 障害に関する知識、通院・医療的ケアの援助
- ・ 帰宅後や休日における家庭の役割
- ・ 事業所との連絡、連携体制

ジョブコーチの活用を考えられる方は障害者職業センターにご連絡を！

《障害者職業センターの立場から…》

就労支援のポイントとして考えるのは

- ・ 服薬を中断しないようにすること
- ・ 無理のない範囲から徐々に就業時間を延長すること
- ・ 本人が疲労の自己認識やストレスに対処できるよう、体調チェックを行うことや、個別の相談を繰り返し行うこと

本人の良い面を
フィードバック

次の目標設定

『西宮すなご医療福祉センター』は、西宮市にある重症心身障害児施設です。総会後の講演会におきまして、訓練生である藤堂克彦さん、就労支援移行支援事業所の『就労サポートセンターあかつき』の金子大介さんとともに、訓練の様子やそこでの変化、そして将来について発表いただきました。今回は番外編といたしまして、その時の様子をお伝えいたします。



【藤堂克彦さん（以下藤堂）】

私はPTSD(心的外傷後ストレス障害)という病気で、現在月に2回心療内科に通院している。主治医からは「症状が落ち着いてきていますね」と言われている。

3年前までは通院以外はほとんどひきこもりのような生活を送っていた。働いたこともあったが、長くは続かなかった。心の中では「現状を変えたい」という強い思いはあった。

そこで主治医の先生や保健所の方に相談をし、「就労サポートセンターあかつき（以下「あかつき」）の存在を知った。「あかつき」では、企業内実習やビジネスマナーなど、就労へ向けての訓練を行っているということを知り「ここで自分を高めたい」と思った。

【就労サポートセンターあかつき・金子大介さん（以下金子）】

「あかつき」に通い始めた頃は毎日のように「やめたい」と言っていた。そこで午前中は「あかつき」に、午後は以前利用していた地域活動支援センターに通うというふうに、徐々に始めた。



藤堂克彦さん

【藤堂】

職場実習で、「西宮すなご医療福祉センター（以下「すなご」）にはじめて行った。そこでは園生さんの衣類整理や仕分け作業をした。実際に現場で働くことを体験する中で「将来誰かの役に立てるようなところで働きたい」と思った。そんな時、社会適応訓練(以下社適)のことを聞いた。「すなご」は社適の協力事業所でもあったので、通い慣れた「すなご」で社適を受けることを希望した。

【西宮すなご医療福祉センター・田中隆雄さん（以下田中）】

「すなご」には約180名の方が入所している。スタッフは医師、看護師、保育士、ソーシャルワーカーなどの専門職があり、病院と施設両方の機能をもった施設。

【藤堂】

はじめは1日2時間、週に2回からスタートした。2ヶ月経つと、各病棟に仕分けた衣類の配送もできるようになった。

【田中】

来始めた頃は、うつむいて恥ずかしそうにしていた。でも仕事はとても丁寧。各病棟に衣類の配送に行った際、他の部署の職員や入所者に会うことに緊張していたようだ。

【金子】

訓練後、帰りに「あかつき」に寄って、その日の訓練の内容や気持ちを振り返る時間をもっていた。「すなご」の職員さんからは「よくできていますよ」という評価をいただいていたが、藤堂さんはよく「だめだった」と言っていた。

そこで、本人と話し合い、出来たこと・出来なかったことを記入する日誌を作ることにした。そして「あかつき」からも「すなご」からも藤堂さんが書いた内容にコメントできるようにし、自分だけでなく、客観的な評価も含めて考えていくようにと促した。

【藤堂】

最初はほとんどできなかったことしか書けなかったが、少しずつだが、「まわりはそんな風に思ってくれているんだな」と確認ができ、出来た部分も記入できるようになった。

半年して、2階の病棟の作業になった。この頃には、1日2～3時間で週3日入っていた。

はじめは、正直「ここでやっていけるかな」ととても不安だった。(2階は一番重度な障害を抱えた方が多くおられるフロア)6階と違い、常に空気が張りつめていた。いつ急変になるか分からない「命の現場」を感じた。



金子大介さん

【金子】

2階にうつって1～2ヶ月は藤堂さんの落ち込みが続いた。そこで1ヶ月に一度、振り返りに「すなご」のスタッフにも入ってもらい、自分の不安を伝え、評価してもらう機会を作った。

【田中】

次第に病室にも一人で入ってもらえるようになった。1年が経つ頃には、週に4日、1日5時間といったペースで訓練に入られ、また新しい作業内容も、自分で工夫して、得意な絵を入れながらオリジナルの手順書を作ったりもしていた。

【金子】

藤堂さん自身「すなご」で働いていきたいという思いがあり、1年間『実習型』を体験し『雇用指向型』にすすんだ。「すなご」にとっても藤堂さんはなくてはならない存在になっていた。



田中隆雄さん

【田中】

より雇用に近い形で藤堂さんに現場に入ってほしいという思いがあった。時間数が増えることで藤堂さんの負担が心配だったが、「あかつき」やハローワークのフォローを受け、乗り越えることができた。ハローワークに使える制度や時間数の目安などを教えてもらい、たいへん助けられた。8月で社適を終了し9月からパートで雇用契約を結ぶ予定。

【藤堂】

当面の目標は、無遅刻無欠勤できちんと働くこと。今は両親の世話になっているがいつかは実家を出て自立して暮らしたい。今後は介護の資格を取得し、人ともっと関わる仕事ができたらと考えている。

ひょうご

職親会だより

2011.11 第27号

※ 職親会（兵庫県精神保健職親会）は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】

《巻頭言》

「笑顔」 兵庫県精神保健職親会 会長 森本 稔 P1

《報告 ①》

平成 23 年度 兵庫県精神保健職親会総会 P2

○平成 22 年度 事業報告

○平成 23 年度 事業計画

○兵庫県精神保健職親会役員（平成 23 年度）

《報告 ②》

講演「働く喜びを伝えよう・働く気持ちを支えよう」 P4

《職場探訪》

西宮市 西宮すなご医療福祉センター P6

《報告 ③》

平成 23 年度働く精神障害者からのメッセージ発信事業

精神障害者中央就業セミナー（in 埼玉） P8

巻頭言

「笑顔」

兵庫県精神保健職親会 会長 森本 稔

本職親会も結成14年になりました。

ふり返る余裕もなく、脇目もふらずにただ働くことへの意義を一途に、また、地道に訴えてきた14年とも言えます。

まず社会に、職場に当事者のスペースを少しずつ少しずつ広げてくださいと、機会あるごとに訴えてきました。総数的には景気に左右されることもありますが、当事者は一生懸命頑張ってきました。

就労即ち働くということは、私はまず「字の如く、人が動くことが出発点で、大勢の関係者が動き、その場所や方法、成果を考えてください」と事業所をお願いをしてきました。

国の方針は遅々として進みませんが、日頃私たちは働きの中にみる当事者の笑顔に「あーよかったなあ」と感じる一刻が得られ、地道な活動であります。就労支援の輪を底辺から広げていこうという思いを強くすることがあります。

職親会は、進まない法整備に苦言を呈するとともに、職親事業所の共通の成果である「笑顔」をもっともっと広げる運動を、さらに展開しようと思っております。





平成23年度働く精神障害者からのメッセージ発信事業 精神障害者中央就業セミナー (in埼玉)

6月にさいたま市で開催された全国セミナーの報告です

埼玉県では就労訓練の制度を各市町単位で作り上げている。その中で埼玉県入間（いるま）市（人口約15万人）の取り組みに注目した。

入間市では、市役所で職業訓練の受け入れを行い（昨年度は20～30名の受け入れを行った）、訓練後の何人かは一般の企業で雇用されている。

訓練終了者を受け入れた数社から、企業の工夫や努力、職場での課題や配慮についての報告があった。

☆企業の取り組みのポイント☆

- ①職場の理解の促進
- ②職域開拓
（軽作業から始めて、もっとできることを考えていく）
- ③サポート体制の構築
- ④地域との連携体制
- ⑤職場環境の整備
- ⑥精神障害者の研修制度 など



中小企業では、専門の精神保健福祉士を雇うといったことは難しい。しかし「できることをやっいていこう」と前向きに取り組まれている。

就職したら終了ではなく、就職してからの定着支援にも力を入れ、継続的な支援を「医療・福祉」と「企業」が連携して行っている。

入間市の取り組みを聞いて感じた就労支援のポイント

- ①精神障害者の支援にはマニュアルがなくオーダーメイドの支援
- ②本人の強さを活かす支援
- ③現場で学ぶこと

入間市では市役所の中に相談支援センターや就労支援センターがあり、ワンストップ支援の形を行政が中心となってい、実際効果もあがっている。

兵庫県の強みは社適の職親の動きが活発であること。今後も古くからある良さを活かしながら、時代に即した新しいことに取り組んでいきたい。

《報告者 兵庫県精神保健職親会副会長 野村浩之》

☆兵庫県精神保健職親会 会員及び賛助会員 募集中

会 員（社適事業所に限る） 年会費 3,000 円

賛助会員（団 体） 年会費 3,000 円

賛助会員（個 人） 年会費 1,000 円 を募集しております。

☆職親会では『手伝ってください！職場への第一歩《手引き書（A4 冊子）版・リーフレット版》』を作っています。就労支援で困った時や啓発にご活用ください。

【事務局】 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

兵庫県精神保健職親会（県立精神保健福祉センター内）

Tel 078-252-4980 Fax 078-252-4981

お問い合わせや、ご賛同いただける場合は、上記事務局までご連絡下さい。